

(様式1)

自 己 評 価 表

(西条農業高等学校)
学校番号(10)

教育方針	ふるさとを愛し、社会の変化に柔軟に対応して、地域の豊かな未来を主体的に創造する担い手を育てる。汗を流し命を育む農業教育を通して、豊かな感性と困難を乗り越える強い心意気を養い、専門的な学びを深めて社会に貢献する職業人を育成する。	重点目標	共に enjoy 西農 地域に愛され、地域を愛し、地域とともに歩む西農 ～100年分の感謝と新たな飛躍への挑戦～
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習習慣の確立	ICTを利用した教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる(平日1時間、検査中2時間以上)。	C	検査中の家庭学習時間の平均は、84分であった。中間検査を実施せず、教科ごとに単元テスト等を実施している。家庭学習の習慣化を図って、適切に課題を与え、指導していかなくてはならない。	教科ごとの単元テストが、同じ日に複数実施されることがあり、生徒に学習量の負担がかかっている場合があった。次年度は、中間検査を実施することで、学習時間を確保し、適切な指導ができるようにしていきたい。
	学習の質の向上	従来の指導方法に加え、ICTの利用等で効果的な学習を実践するなど授業満足度の向上を目指す。また、各学期末の授業アンケートを基に授業改善に各教科で取り組む。	A	ICTを活用した授業実践に各教科取り組んでいる。また、その実践や効果的な指導方法を教職員間で学び、授業力を高めるために、相互授業参観週間を設けた。	次年度も相互授業参観週間を設け、教職員同士でICT活用実践力や授業力を高めるようにしたい。また、様々な事情で別室への登校指導が必要な生徒が毎年出てくる。そのような生徒に対し、ICTと対面のハイブリッドで学びが遅れないよう、教室復帰につながるようサポートしていきたい。
	読書指導の充実	授業との連携を図り、一人当たりの年間貸出冊数3冊以上を目指す。朝の読書を充実させ、静寂の中で全員が読書を行うよう指導する。	B	一人当たりの貸出冊数は12月末現在で2.7冊と目標である3冊に迫っている。朝の読書に関しては、今年度の実施は見送った。	来年度は、朝の読書を実施するなどして貸出冊数の増加に努めるとともに、蔵書の充実を図る。また、授業における図書室の利用も拡充していきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	適切な言葉遣い、マナーを守って生活する。また、生活のリズムをしっかりと作り、出席率95%を目指す。A:95%以上、B:94~85%、C:84~75%、D:74~65%、E:65%未満 身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満	B	「欠席」だけでなく「遅刻」「早退」を繰り返す生徒も多かった。本件度までは「欠席」「遅刻」「早退」の指導を生徒課が行っていたが、履修要件に関わってくるので、来年度からは教務課が指導を行うことになった。学習活動に対する意欲が低い生徒が増えてきている。 身だしなみ指導では大半の生徒は1回目合格するのだが、同じ生徒が違反項目を指摘されてから直す生徒が増えている。	「欠席」「遅刻」「早退」の指導を来年度からは教務課が指導を行うことになった。今でも行っているが、欠席等の理由によっては一律の指導ではなく、教育相談課とより連携を行うと良いと思った。 来年度から男子の身だしなみと規定が大きく変更になる。細かい規定についても「規則」で縛るのではなく「マナー」として身に付けるような環境整備を行いたいと考える。引き続き、生徒会を中心に生徒の意見が反映される形で、校則の改変を進めていきたい。
	規範意識の高揚	社会規範や公共道徳を守る意識を育てる。生徒・保護者と教職員が共通理解を図り、生徒の安全を確保し、学習環境を整える。 また、生徒会を主体として校則の見直しを行う。	C	飲酒・喫煙・外泊・無断アルバイト等を容認する保護者が増えてきている。交通ルールやマナーが守れず、地域の方々に迷惑をかけている生徒も多い。 校則の見直しでは、生徒会が中心になり積極的に活動した結果、来年度から大きく変更することになった。	保護者の理解を得られるように、大きな問題になる前に保護者と懇談等が実施できる環境整備を心掛けたい。学習活動より自分の楽しさを追求したり、自分と意見の違う者を認めない割合が増えてきている。反社会的な行動を取る生徒も増えてきているので、児童相談所や市役所(子育て支援課)、警察等の外部機関と連携を強化したいと考える。
	学校行事・部活動の充実	部活動の活性化(加入率90%以上)を推進する。生徒会が中心となって学校行事の運営や改革を行う。 学校行事において生徒の主体的活動を引き出す。	C	部活動の活性化では、入部率が60%と低く、活動も低迷した。 学校行事では、生徒会を中心に活動ができた。	部活動入部率70%を目指し、入部者が年間を通して活動しやすい環境を構築していきたい。 学校行事において、生徒会を中心に検討の場を多く作り、理解、納得した上で生徒主体に活動できる場を提供していきたい。

教育相談	生徒との面談時間の確保	<p>表情が気になる生徒がいたら声を掛け、少しでも不安を減らし、安心した学校生活が送れるよう手助けする。要配慮の生徒に対しては、校外の機関と連携を取り、ケース会を頻繁に行うことで、個別最適な支援を行う。</p> <p>互いの「よさ」や「ちがい」を認め、また、周りに大切にされていることを知り、自分も含め思いやりをもって人に接する。</p>	B	<p>スクールライフアドバイザーによる新入生全員との面談、各学期1回実施の学校生活アンケートを基にした面談、支援を要する生徒やその保護者との定期的な面談を通して悩みの実態把握を行い、教職員や関係機関との連携を深める相談活動が実施できた。別室登校やクールダウンの場所として教育相談室が少しずつ機能するようになり、自発入室する生徒も出てきた。</p>	<p>「特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援」「高等学校における通級による指導」について校内研修を行い、つまづきのある生徒への具体的な支援を学ぶことができた。今後はこの内容に加えて、支援を要する生徒に対する生徒指導の在り方にも着目した研修や相談体制を充実させたい。また生徒課・人権教育課・養護教諭との連携を強め、生徒の心の危機のサインを逃さない教職員の意識向上に努めていきたい。</p>
進路指導	進学指導の充実	<p>生徒の進路実現のため、3年間を見通した計画的な指導を行う。</p> <p>課外への出席率100%を目指し、学びに向かう学力を高めさせる。</p> <p>オープンキャンパスへの参加率100%を目指し、最適な進学先を選択させる。</p> <p>第一志望校への進学100%を実現する。</p> <p>A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:70%未満</p>	B	<p>課外出席率95%（評価B）：教科担当の熱心な指導により生徒の進路意識が向上した。オープンキャンパス参加率3年生100%（評価A）で数回参加したり、2校以上参加して進路を確定させた生徒もいた。第一志望への進学100%（評価A）：国公立大学1名を含む全員が第一志望校への進学となった。</p>	<p>課外については、引き続き基礎学力向上につながる取り組みとして継続したい。オープンキャンパスには早い段階から積極的に参加を勧め、同時に面談を通して可能性のある、複数学校のオープンキャンパスへの参加を勧めたい。特に国公立大学進学に関する教員間の共通理解と、具体的な指導方法の見直しを図り、合格につなげていきたい。</p>
	就職指導の充実	<p>進路に関する面接機会をできるだけ多く設け、生徒の適性を見出す。</p> <p>応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させ、企業とのミスマッチをなくさせる。</p> <p>就職内定率100%を実現する。</p> <p>A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:85%未満</p>	B	<p>応募前見学参加率100%（評価A）：各事業所の温かい対応で、就職内定につながった。</p> <p>就職内定率98%（評価B）：1名家事手伝いとなったが、公務員1名合格を含む72名が内定した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より、求人閲覧をWEBでの閲覧とした。このメリットは大きく、次年度は早期に閲覧を可能にしたい。 ・長期欠席生徒や、特別な配慮を要する生徒の就職に向けた取り組みを早期に開始し、ミスマッチをできるだけ減少させる方法を模索したい。
	<食農科学科> 地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実	<p>生徒の地域活動への参加を通して、自己の知識・技術の深化を進める。地域活動への参加率100%を目指し、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%以上 E:50%未満</p> <p>積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組ませることで、人間力を養う。</p> <p>各部門校内大会への参加率100%、外部コンテストへの応募5点以上を目指す。</p> <p>A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%以上 E:50%未満</p>	B	<p>産業祭、各種イベントやアンテナショップ、商品開発の実現など、今年度も多くの生徒が参加できた（A100%）。外部とのかかわりの中で、生徒の活躍が活性化でき、コミュニケーション能力の向上にもつながったと感じる。また、プロジェクト学習の充実に伴い、農ク校内大会への全部門の参加や入賞などの成果も上がった。また、全国規模の外部コンテストでもたくさんの応募ができ、全国入賞の評価につながり生徒のやる気も刺激できた。（A100%）さまざまなメディア発信もでき、各部門での取組が生徒の成長に効果的であった。</p>	<p>今年度の3年生が多くの活躍を見せる中で、3年計画での生徒の指導が大切だと実感した。取組としては学科全体ではあったが、成果としては、まだまだ個人のスキルに頼っている。イベント等への参加数は100%ではあったが、コミュニケーションの能力の向上は差があったので、組織的に指導する体制を作り高めたい。今後は、プロジェクト活動の成果検証と地域貢献の実績を具体的なつながりになるよう計画し、組織的な取組として努力したい。学科として、行う特色ある取組が今年度特色選抜の募集に影響があったと感じる。今後は、学科の良さである、商品開発や地域交流、イベント参加をプロジェクト学習との連動をさらに強くし、生徒募集や生徒の進路実現につながらせたい。</p>

農業教育	<p><環境工学科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実</p>	<p>地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。 A:80%以上、B:79~70%、C:69~60%、D:59~50%、E:50%未満 各種コンテスト等に積極的に取り組み、5点以上応募する。 A:5点以上、B:4点、C:3点、D:2点、E:1点</p>	C	<p>【資格取得】 造園技能士3級に1名、測量士補も1名が合格した。 【コンテスト等参加】 農クの各種発表の他、棚田保全活動などで地域の人との交流を深める機会が増えてきた。</p>	<p>【資格取得】 1年生で、資格取得に意欲を示している者が多いため、個別に指導する場面を設けるなどして、学習意欲のさらなる向上を目指したい。 【コンテスト等参加】 地域や生徒の興味関心につながるものの中から精選し、積極的に取り組むように働き掛けるとともに、マスコミなどでの広報により、自分たちの活動に自信が持てる活動となるよう支援していきたい。</p>
	<p><生活デザイン科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実</p>	<p>アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。 基礎・基本的技術を定着させ、家庭科技術検定合格率100%を目指す。 一人一台タブレット端末を活用した授業を積極的に実施する。学校情報化認定のチェックでレベル2以上を目指す(学科内で測定)。 動画や文書等、情報発信を一人1回以上実施する。</p>	B	<p>【検定】家庭科技術検定合格率は食物1級59%、食物2級65%、被服和服1級21%、被服和服2級72%、保育1級種目別100%であった。【情報発信】一人一台端末を活用した授業を積極的に実施し、学校情報化認定のレベルアップに努めた。</p>	<p>【検定】練習の回数を増やしたり、個別指導を通して合格率を高めたい。【情報発信】一人一台端末は有効に活用できているが、さらに研修等を積極的に行っていききたい。</p>
	<p><農業クラブ活動> 農業クラブ活動の活性化</p>	<p>行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的参加を呼びかける。 県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。 (県大会)A:50%以上、B:49~40%、C:39~35%、D:34~30%、E:30%未満 (全国大会)A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:50%未満</p>	C	<p>県大会での入賞率は50%、全国大会の入賞率は43%だった。昨年度よりは行事案内を校内に行い、積極的な参加を促せた。今年度は全国大会で、農業鑑定競技(農業土木)、平板測量競技、プロジェクト発表会のそれぞれで優秀賞を受賞し、昨年の成績を大きく上回った。</p>	<p>農業鑑定競技会の学習方法については、昨年度からも課題として挙がっていたものの、指導方法の確立ができておらず、組織的にできていないので、来年度こそは改善していきたい。農業クラブ役員は役割に応じた活動ができるように活動を活性化していきたい。(月1の定例会議の実施) 具体的目標の達成が厳しいので来年度は現実的なものにした。</p>

総務	PTA活動の活性化と広報活動の充実 校内諸行事の円滑な運営	保護者が学校行事へ積極的に参加できるよう、行事内容を工夫し、出席率の向上を図るとともに広報活動を充実させる。 各部・各課との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。	B	運動会、西条市産業祭への参加を呼び掛けた。産業祭では、PTAバザーを開催したが、役員さんを中心に参加していただいた。前日の準備から当日の片付けまで、楽しくできた。 各課との連携を密に取り、PTAが参加できる行事等はないかと思案したが、やや不十分であった。	マチコミメールは今年度で加入率はほぼ100%であるため、その活用をさらに充実させ、校内・校外の各種行事への参加を積極的に呼びかける。また、学校ホームページを使用し、保護者へ行事計画の周知を図る。特に、西条市産業祭での活動がメインになるため、年度当初より学校へ来ていただける行事等を計画したい。
環境厚生	美化意識の高揚 地域への貢献	地域へのボランティア活動を年2回実施する。 地域に役立てる人材を育成する。 総合的な探究の時間を積極的に活用することで、 <u>地域のために役立てる生徒を育てる。</u>	C	・年2回実施できた。各学科の活動として絵本の読み聞かせ、棚田の保全活動などの活動もある。 ・清掃活動などを通して、地域の環境保全に貢献できる人材の育成ができた。	・地域と共に管理する場所の場合各団体との連携を図る。 ・各学科で行っている地域貢献につながる活動の情報共有。 ・総合的な探究の時間の学習内容のポスター展示など
研修	校内外研修の充実とICT活用力の育成	基礎研修の充実を図り、教員のライフステージに応じた資質・能力の向上・定着を図る。 校内外における研修を充実させ、教員の資質向上を図るとともに、ICTを活用した双方向授業の方法等を研究する。	B	ICT活用においては、個人差があるものの、他校に比べて先進的な知取り組みがなされている。 校内外の研修も充実していると考えている。	DX教育が始まるため、さらにICT活用に関する研修を充実させる必要があると考えている。また、熱中症対策の研修等も充実させていきたいと考えている。
人権教育	人権・同和教育の充実	<u>互いに認め合う集団づくりを行い、生徒一人一人を大切にし、進路実現に向けての進路保障に努める。</u> 人権・同和教育についての研修や情報発信の充実に努め、生徒の自己肯定感や人権意識の向上を図る。	A	毎月「人権を考える日」にかかわって、西条市の人権擁護課の資料などを提示し情報発信を行うとともに、人権問題啓発映画の鑑賞により人権意識の向上を図った。	人権委員会などで、積極的に人権・同和教育HR活動などに関われるようにし、人権問題啓発映画の鑑賞や講演などにより、生徒の人権意識や自己肯定感の向上や望ましい仲間づくりについて生徒自身が考える機会を設ける。教職員の人権意識の向上を図るための研修を充実させる。
業務改善	勤務時間の適正化	勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 校務の効率化に努めるとともに教職員全体の更なる行動改革を進め、適正な勤務時間に対して積極的に評価する。	B	昨年度に比べ、退勤時間が早くなったものの、1か月あたり、平均5名程度の教職員が45時間を超えている。	テレワークや年休を利用する職員も多く、全体的にそれを温かく容認する雰囲気づくりができています。全職員のワークライフバランスが取れるように次年度も努力していきたい。
	職場環境の整備	<u>学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。</u> <u>IT機器の有効利用や仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図る。</u> 教職員との健康相談や面談を定期的実施し、円滑な人間関係の構築に努める。	B	少人数の職場なので、連絡を密にすることができた。普段の授業に際しても、一人一台端末の導入により効果的な活用が見られ、業務の効率化を図ることができた。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。